

令和3年度第2回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和4年2月17日（木）
13時30分～16時30分
場 所：青葉区役所7階会議室
出 席：島田委員長、荒井委員、小川委員
加藤委員、齊藤委員、白石委員
※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 委員長 島田 福男

3 議事

(1) 議事録署名人選定 小川委員

(2) 令和3年度青葉区区民協働まちづくり事業 企画事業報告会

◇各事業報告

◇質疑応答、意見等

① 仙台市ほたるの里づくり事業

委員 コロナ禍の中で大変だったと思うが、鑑賞会や里親の会にはそれぞれどれぐらいの人数が参加していたのか。

説明者 鑑賞会は各団体が自由に来てくださいという形でやっていた。旭ヶ丘などでは、ほたるが飛んでいる時には数百人単位で来ていたという情報がある。里親の会は幼稚園の子供たちの親子を含めて50名程度参加している。

委員 ブログでということもあったが、せっかくなのでオンラインで蛍狩りができるというようなことがあっても面白いと思う。去年彗星が来た時に夜空をずっと映して、彗星の動きを見られるというYouTubeライブをやっていたので、ほたるでもできないことはないと思うので検討していただきたい。

説明者 役員会でも提案してみたいと思う。

委員 コロナ禍においてもたくさんの活動を、各支部に渡ってやっていることは素晴らしいと思い聞いていた。ひとつ予算についてお伺いしたい。各地区の運営費として割り当てられているのが予算のほとんどを占めていると思うが、1万円から17万円とすごく幅があると思う。報告書の方で各団体の報告は拝見しているが、主にこういった使い方をされていることが多いのかというのが1つと、また里親制度は素晴らしいと思うが、お渡ししてどのぐらいの率で成虫になるのか。多分コツを教えてはいると思うが、すごく難しそうだと思うので、教えていただければと思う。

説明者 各団体に大体5・6万円から多いところで18万円とかということで渡している。例え

ば筑川では、川から養殖場まで水を運ぶポンプの電気代が年間8万円ということで、そういったものに補填しており、あとはほとんどの団体はお祭り出演者の交通費などにかかっている状況と伺っている。今回お祭りをやらなかったところは幼虫の飼育セットなどの備品に使っているが、お祭りがある時にはほぼお祭りの方にかかっている。お祭りのための予算なのかという反省もあるので、飼育や日常の活動の方の経費に使って欲しいということをお願いしているところである。

委員 それは各団体に会計担当の方がいるというイメージでよいか。コロナ禍でお祭りができないことになっても、いろいろな活動があれば別に予算を流用でき、無駄なく使っていただけと思う。

説明者 ほたるの里親制度では、幼虫はなかなか死なないので簡単に育てられている。一番難しいのが、えさとなるカワニナが非常に育てられないということで、えさがなくなったら電話をいただいて補充するというのでやっている。本来なら自分たちで取りに行きえさを補充してもらうが、冬の時期はカワニナも隠れて捕まえることができないということで、こちらから補充している。放流した幼虫が果たしてどれくらい成虫になっているかはわからないが、ほぼ90%近く放すことはできている。

② 回文の里づくり事業

委員 夏休みの子供のコンクールがどうしても応募が少なかったという話があったが、その背景としてなかなか学校の関与が難しいということだった。現状では市民センターと児童館、宮城総合支所内に配られていると思うが、青葉区は広いので作並街道沿いなど場所の選択は必要かもしれないが、青葉区内の市民センター、あるいは児童館などに広げていくと応募も増えるだろうと思う。応募が増えるだけでなく、いわゆる交流機会、例えば看板やパネルなども作られていると思うので、そういうところに足を運ぶような機会にも繋がるのかなと思う。もし何か宮城総合支所内に限られている理由や、今後広げていきたい思い等々あれば教えいただきたい。

説明者 接触する機会をつくれれば広がるのでないかということは肝に銘じてあるが、スタッフが実質自分1人ということで、積極的に営業をする余力がない。実は去年に回文コンテストの審査員の先生方から、荒町で回文をやっているから、そこに顔を出してつないでみたらどうかと言われているが、1年経ってもやってないという現状がある。今いただいたアドバイスは肝に銘じてやっていきたいと思う。

委員 作並はラサントや市民センター、温泉など、活動する場や発表の場がいっぱいある。せっかくあるのに1人でやるのはもったいないので、なるべく大勢の人を仲間にして、もっと活動が広がればいいと思う。それから小学校だが、コロナ禍で小学校の行事そのものがほとんど中止になっている。何かできないかということは学校側も一生懸命考えているので、こういう回文なんていうのは先生が喜んで協力してくれると思うので、積極的に声掛けをすれば小学校の協力も得られるかと思う。

委員 地区の中で小学校や作並地区の企業、団体が協力をして下さっていると拝見したが、どういう団体とか企業が、協力・参加しているのか。

説明者 団体は旧作並小学校のPTAだった人や、あとは町内会関係の人である。簡単に言うと充て職のような形でずっと続いている。回文愛好家、回文が楽しくて入っている人

もいる。企業としては、平成 26 年から作並温泉旅館組合が手を引いたので企業のバックアップはない。何かお願いをすればやってくれる旅館さんはいる。岩松旅館で 3 月に俳句教室をやるらしいということで、温泉とタイアップしたらいいのではという地域からの声もある。もう少し温泉とも寄り添ってみたいと思う。

委員 俳句のようなものに興味がある方は、もしかしたら回文にも興味があるかもしれないので、声かけをもう一度するとか、あるいはニッカさんといった市民と交流の場を持っている大きい企業もあるので、そういったところにも声掛けをすると応募作品が増えてくることも期待できるのかと思う。

③ 第 42 回仙台市宮城地区市民文化祭

委員 こういうものを 1 回やるのも大変だが、42 回やられたというのは本当に大変だと思う。心から敬意を示させていただきたい。毎年文化祭の内容というのはビデオテープなどで記録しているのか。

説明者 最初の頃は撮ったことはある。写真は写真帳として残しているが、動画は技術者がおらず再生する機会もないので残していない。

④ 大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」

委員 コロナ禍にあって 5 日間で常に 200 人以上の来場者ということで、とても盛況だったと思う。一つお聞きしたいのは、小中学生に鯉のぼりの製作依頼をして、70 本の中で 36 本を掛けたということだったが、残りの 34 本についてはどのような扱いになったのか。

説明者 初年度はコロナ禍ではなかったもので、余った鯉のぼりは公園内にポールを立ててそれぞれ掲げた。大きい鯉のぼりは下の方まで垂れ下がっており、子供たちが初めて触るということで喜んでいて。ただ不特定多数が触るとするのは今の時代は駄目なので、令和 2 年度と 3 年度については残ったものは展示で掲げることはせず、ずっと倉庫の中にしまったままであった。もったいないとは思っている。

委員 初年度から拝見して、毎年着実にイベントが大きくなって行って、やる内容も非常に豊富になっており大変うれしく思う。イベントの広報というのはどういったところを対象に行っているのか。あとどのような方法で行っているのか。

説明者 基本的には不特定多数に広報したいということで、市民センターのホームページや市民センターだよりで広報している。それから地域の町内会等にチラシ等を配るといったような形でやっている。令和 2 年度は Oh バンデスに出て宣伝をしようと思っていたが、コロナ禍になってそういった活動を一切できなくなっているという状況で、来年度についてはその状況を見ながら、広報の方を広げていきたいと思っている。

委員 せっかく綺麗な鯉のぼりなので、ダムの立派さというのも含めて、なるべくダムの魅力と鯉のぼりの美しさが 1 人でも多くの方に広がってくれることを祈っている。

⑤ MIYAGI イルミネーション PLUS～ありがとうを伝えよう～

委員 宮城地区まつりの代替イベントということで、8 日間で延べ 2500 人ということで、大成功だったのではないかと思います。プロジェクトチームは社会人と学生が半々ぐらい

で 15 名ということだが、地区まつりのときもプロジェクトチームを組んでやっていたのか。

説明者 結成したのは令和 2 年度が初めてである。昨年度まつりが中止になったことをきっかけに、今後何か新しいことをやっていけないかということで、昨年度からチームを作って進めてきたという経緯である。

委員 打ち合わせの日程調整など難航したということだが、誰か要になってまとめる人がいるといいかと思う。

委員 物品を来年以降も活用するということが、物品もそうだがイルミネーションなどの制作のノウハウが確実にチームの中に蓄積されると思うので、できれば来年度以降も何かしらお祭りの一部でイルミネーションをやるとか、せつかくイルミネーションを作るやり方などを知ったと思うので、ぜひそのノウハウも活用していただければと思う。そうするとさらに素晴らしい作品が出来上がると思うので、ぜひ頑張っていたほしいと思う。

委員 実施したのが 10 月 30 日から 11 月 6 日ということだが、こういう時期にキャンドルやイルミネーションを点灯して、十分暗い中になっていたか。

説明者 この時期で 5 時頃からはかなり暗くなってきていたので、6 時からとなると十分見える状況で、むしろ準備が大変なくらい暗かったのでかなり映えていたと思う。

⑥ 青葉区民まつり事業

委員 個別の業務委託から一括の業務委託に変わったというところが大きな変更点ということで、リアルでこの状況の中でやっていくために、こういうふうにしなければいけないところがあり、感染対策や職員の負担軽減というところが、仕組みを変えたことのメリットになっているのかなと伺った。もしその点以外に、方式を変えたことによるメリットやデメリットみたいなものがもしあれば教えていただきたい。

説明者 メリットについては申し上げたとおり、今まではいろいろな業者への委託や出店者の募集説明や、当日のやりとりなどもすべてやっていたので、そこを一括でお願いできるのは負担軽減として大きいと思う。あと感染対策の部分はかなり気を使わなければいけないところなので、そこを実績のある会社にやってもらうことは大きかったと思う。感染対策には物品調達などいろいろあり、それも結構業務負担にもなってくるので、そういうところをプロにお願いできるのはメリットかと思う。

デメリットとしてはこれも最後に申し上げたとおり、今までは区民協働というところで青葉区民まつりのプロジェクト会議というのがあり、学生や社会人を含んだボランティアメンバーと、例年だと月に 1 回程度会議を行って、11 月 3 日に向けてどういう祭りにしていくか考えながらやってきた。それが一括の業務委託になっているので、基本的には事業者が内容を考えてこちらとすり合わせることになるので、手づくり感を今回はそこまで入れられなかったもので、そこを来年度以降どうするかが課題である。例えば当日の出店で、ここはプロジェクトメンバーの出店のブースにするだとか、できる範囲で手づくり感というか、区民協働のところも入れられるようにすればいいかなと思う。

委員 一括で今回お願いしたということだが、この公募型のプロポーザル方式というのは、

どういふ方法で業務委託をお願いする方法なのか教えていただきたい。

説明者 一般的な業務委託だと入札や見積もり合わせをして、金額が一番低い会社と契約するという形だが、プロポーザル型は事業の内容を事業者に提案してもらい、金額だけではなくその内容、どういふふうなお祭りにするのか、どういふ運営体制かというのを含めて審査して、どこの事業者にするか決めて委託するという方式である。

委員 そうすると来年どうなるかはわからないが、例えば個別でまた職員の負担が増えるような方式になるのかはわからないが、費用負担はあまり前年とかとは変わらなかったということか。643 万かかっているということだが、そういう費用負担の面ではどうだったのか。

説明者 報告書の収支に書いているが、全体経費が 643 万かかっている。昨年度は中止したので令和元年度の数字になるが、その時は全体で 740 万ほどかかっているので、全体の経費としては、今回は少ないことにはなっている。収入の面で言うと今回は市の助成金と、あとはまちづくり推進課の他の予算や、協議会の別な予算とかをかき集めて 643 万充てたが、例年だと助成金が 400 万で、あとは各町内会や企業からの協賛金が 100 万幾らということをやっていたので、事業費の支出としては 750 万から 643 万と下がっているが、収入の面で協賛金が取れなかった分、市の方で出す額が多かったということになる。

説明者 予算の面でも苦労したと思う。

⑦ 仙台伝統ものづくり塾事業

委員 伝統のものづくり塾ということで、すごく参加したいなと思う企画が続々と素晴らしいと思うが、これが市民センターとまちづくり推進課だけで、それを実施まで持っていくのは非常にもったいないと思う。コロナ禍なのでできないこともあり、主導する立場からすると、コロナ禍でいろいろ変更が加わることでの実行委員の手間を考えているのかとは思うが、それも含めた市民活動の醍醐味みたいなものを体験させてあげるような、そういった機会になるのではないかなと思う。コロナ禍でできなくなるから、何をしようかということも含めて、市民の方のアイディアをもっと引き出せるような仕組みがあるといいと思う。

具体的に言うと、事業の内容を見て興味を持つ方が非常に多いと思うので、そういった核となる方を数名だけでも実行委員会形式の中に組み入れていって、最初はいきなりその方々でお任せするのは難しいとは思いますが、講座の最後にこういったのを来年度もやるので一緒にやってくれませんかみたいな、声かけやアンケートをして、そういった人材を集めるのも大事なのではないかなと思う。具体的に 3 回参加された方で、次に何かあればお手伝いしたいなんていう方はいなかったのか。

説明者 あまりそういう視点はなく、主催側と参加者ということでやってしまっていた。多分そういう講座に参加される方は、積極的に市民センターの他の講座やイベントにも参加されていらっしゃるので、可能性としてはあると思うので検討させていただきたいと思う。

委員 役割が回されるとみんな嫌がるが、役割でなく興味を持っていることを一緒に考えるアイディアだけでもというところから入ると、いろいろな方が参加しやすいと思う。

委員 募集方法と、それから10名の申し込みは定員だったのか、あと3回連続でないと参加できないというのがどういうコンセプトだったのか、お聞かせいただければと思う。

説明者 募集方法については、市政だよりも掲載したり市民センターでチラシを作ったり、仙台市のホームページに掲載して募集をしている。こちらの10名については、最初は先着12名で募集をして、コロナの関係もあるのでそんなに多くなくてもいいだろうというところで10名となっている。

あとは3回とも参加できる方ということだが、講話とまち歩きと陶芸体験ということで、例えば陶芸体験が人気で講話の方はあまり来ないというようならばつきが出るのではと思うところと、3回連続で出ていただいて、多方面のところから学んでいただきたいということで、3回とも来られる方を募集している。

⑧ 個性ある地域づくり計画事業（片平地区）

委員 第二期まちづくり計画の方に進まれるということで、大体意見が集まったということだったが、まずまちづくり会が主導して、この第二期計画の骨子を作ったのか。

説明者 今現在は、第1計画の中の実践活動をやりながら、さらにそのメンバーに加えて新しいメンバーも作って、約50人のメンバーで第二期計画をやっている。分科会を分けて作っている。その中で一番重視しているのは、福祉のことが第1期計画ではお留守になっているという話で、福祉のことを一生懸命やっている。先ほどの誰1人残さない活動だとか、そういうことを取り上げながらやっっていこうということで、一応随分反映させたつもりである。

委員 第1期の時代を見ると、どうしても災害の多い時期だったので、どこを優先するのかというところでいろいろ残ってしまうところが出てくるのは仕方がないと思う。それをあえて第二期で出して、力を入れていくというのは大変よろしいかと思うので、ぜひ安心して住めるまちづくりというのを進めていただければと思う。

委員 2点ほどあるが、片平地区のまちづくり会の名前はいろいろなところで伺ったことがあるが、かなり大きな取り組みだと思うので、例えば他の地区や、あるいは他の区に何らかの形で情報発信をされてくると、仙台市や青葉区全体としてのまちづくりの底上げになってくるのかなと思う。これまでどういう形で情報発信をされていたか、もしあればお伺いしたいのが1点。

2点目は、第1期が東日本大震災もあり、その前に宮城県沖地震が99%来るという話もあったと思うので、防災ということが一つのテーマになり、第二期の方では福祉という話だったが、阪神淡路大震災があった神戸などでは防災福祉コミュニティという言い方をずっとしてきていた。おそらく防災と福祉は根が一緒というか、問題意識として一緒だと思うので、取り組みを継続されて、いろいろな形で継続をされていくのがいいのかなと思う。

1点目の情報発信の点で、もし何かあれば教えていただければと思う。

説明者 防災発信では、特に3.11の時にいろいろやってきたというのを、冊子にまとめて仙台市長宛に報告した。そうしたらそれがいろいろなところで波及され、今11年経つわけだが、北海道から九州まで私が行ったり、あとは来てもらったりということで、200

回近く話はしている。もちろん防災のことだけでなくまちづくりや、あとはまちなかの農園のことなどについても話をしている。

あとは近隣のところは、特に今我々がやっているのは、仙台駅から西公園までのところの青葉通りまちづくり協議会というのがあり、そちらと一生懸命一緒にやっている。直接隣で関わっているので、いろいろ関わりがあるということも含めてである。特に今は下水道の問題を問題にしている。コロナの関係もあるが、実は仙台の真ん中のところは合流式といって、生活雑排水と雨水が一緒になっている。それが、雨が強烈になるとマンホールから吹き上げて出て、要するに生活排水も一緒になって吹き上がっているというのがあって、それを何とかしてくれという話でやってきている。今はすぐには変えられないが分流式にということで、下水道専門の話を大分してもらえようになって、非常に良くなっているかなと実感している。そのことも含めて、他の地区とも一緒になってやっている状況である。

委員 自立した組織としての成り立ちも含めてあまりに立派なので、ついていくのになかなか時間がかかった。これからの第二期の計画では福祉の部分に集中するとか、子供のことなどたくさん出てきたと思うが、今の予算を拝見すると計画書作成に結構予算を取られていると思うので、子供やまちに関わる女性の方も含めて様々な地域の方に向けた、どんな方にも伝わるような平易な言葉を使われて、簡単なもので伝わるようなものもあるといいと思う。説明がたくさんあるのはとてもわかりやすいとは思いますが、例えば子育て中のお母さんは何も見る暇がなかったりするもので、いつもはできたとしても何も見る暇がなかったりする方も巻き込んでいただけるような、簡単なわかりやすいものや、それから活動自体もそういったものを目当てに人が集まれるようなもので、少し横に広がっていくといいのかなと思う。もっと地域の方が目の前のことにすぐ参加できるような、気軽さみたいなものもあるといいと思うので、その辺は何か具体的に考えていることはあるか。

説明者 いろいろな勉強会などは、なるべく女性の方も含めてという格好にはしている。最近では、助けてハウスのハロウィンパーティーということで、町内のお母さんたちが作ってくれた漫画がある。いわゆる助けてハウスというのは全国的にあるが、ああいふもののマップはもらうが具体的にどこにあるのかよくわからないし、わかったとしても顔見知りでないとか何か危険が起きたときに行けないということで、子供たちを連れて案内したいという企画を中学生が自ら立てたことがあった。もう4年ほどやっていたが、コロナ禍になってなかなかできないということで、去年は無理にでも1年生と2年生を対象に行った。新しいPTAのお母さんたちも、子供たちのために非常にいいということで、今年はやはり危なくなってきたからやめようとなったが、この漫画を作ろうという話になって漫画を作ってくれた。そうしたら今度は6年生の子供達が、学校で配られているタブレットで動画まで作ってくれて、それも今は誰でも見られる状態になっている。

そういうようなことでやっているが、なるべくそういう情報をお年寄りの人たちにもわかるようにしようということで、タブレットやスマホの勉強会などをして、そういうようなものも一緒に使えるようにしようということでやっている。

⑨ 仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演事業

委員 紙芝居の演者の人数は今どのぐらいいるか。

説明者 今は実行委員の中で演じることができるのが4人となっている。大体その4人の方と、あとは自分では演じないが太鼓で盛り上げたりする方が数名いるので、上演会がある時はその方が何人か一緒になって出ているという状況である。

委員 上演をお願いする場合、どのようなルートでお願いをすればいいのか。

説明者 まちづくり推進課が事務局になっているので、こちらの方に連絡をいただく形である。区の関わり方というところにも書いてあるが、実際には上演会開催に伴う施設との調整などはまちづくり推進課の方で行っており、地底の森ミュージアムや区民まつりのステージでの発表というのも、まちづくり推進課の方で調整をして場の設定をしている。

委員 今の持ちネタというか、紙芝居化された話というのは何話ぐらいあるか。

説明者 36作品である。昨年度は1つ新しい作品を作ったが、作品数も増えてきているというところもあり、今年度は新しい作品は作らず、今ある作品を広げていこうということでやっている。

委員 形のない昔話を形あるものにしていくのは大変重要だと思うので、今後も大変期待したい。

委員 お尋ねしたいが、紙芝居の貸し出し販売も行うと書いてあるが、販売で買っていかれる方はどういう方か。

説明者 主には貸し出しのほうが多いが、販売となると実際に紙芝居を演じられる方が自分で持って読みたいという方や、あと昨年度は町内会で実際に購入してもらい、施設に置いていただくという形で活用いただいている場合もある。

(3) その他

4 閉会